

令和6(2024)年度
運営に関する計画・自己評価

最終評価

大阪市立梅香中学校

大阪市立梅香中学校令和6(2024)年度運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

校内アンケートでは「学校のルールを守っている」と感じている生徒の割合がここ数年 9 割を超えている。これは生徒一人ひとりが主体的に行動し、自制心や判断力が身についてきた証だと捉えている。また、「楽しく学校に通っている」や「授業が楽しい」、「自ら考えるようになった」の質問項目でも肯定的に回答する生徒の割合が 7 割を超える等、増加傾向にある。学校安心ルールの下で、落ち着いた学習環境・雰囲気の中で日常的に生徒が楽しく学校生活を過ごせるようになったことは人権学習や道德等の実践を積み重ねてきた成果である。現在、「あいさつ」ができていない学校、部活動の充実した学校、夜間遠足のある学校として保護者や地域の方々からの評価も高まってきている。今後は生徒の学力向上に重点を置いた学校づくり、カリキュラムマネジメントの充実が喫緊の課題である教職員が一丸となってより一層、教職員の資質の向上と生徒への質の高い授業を提供する等、保護者ときめ細やかな連携を図っていく。

チーム梅香中学校は、課題解消のため、校区小学校や此花区役所との連携を積極的に推進していく。課題の学力面をテスト結果から分析すると、チャレンジテストによる評定平均が下位層にあることがわかる。「平均正答率」では、すべての教科において大阪府、大阪市のそれより下回っている。また、昨年度の全国学力学習状況調査においても同様である。学校元気アップ事業や、今年度より始まる学校力向上支援チーム事業を効果的に活用し、放課後学習会や定期テスト前の自主学習会を充実させることで成果を期待する。

さらに、こどもサポートネット事業を活用し、生徒の学習規律の改善や環境の整備、生活指導における支援を通して、生徒の家庭学習の定着や規範意識の醸成を図るとともに、基本的生活習慣の構築不足を改善していく。また、学力への課題や心身の健全な育成を促すことで、生徒が「夢」や「目標」を持てるようなキャリア教育の創意工夫と様々な深い学びを通して、生徒の向上心や達成感を刺激し、一人ひとりの自尊感情を養うことをめざす。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の児童生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 令和 4 年度～令和 7 年度の年度末の校内調査において、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を、毎年 100%にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和 3 年度より 10%増加させる。
- 令和 7 年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和 3 年度

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より4ポイント増加させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率5割以下の生徒を、令和3年度より10ポイント減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「わたしは、授業を通して、基礎的・基本的な学力を身につけている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より5%増加させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.1ポイント向上させる。
- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和7年度調査において、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童(生徒)の割合を、100%にする。
- 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合を、100%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査・校内調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、肯定的に答えない生徒の割合を、令和3年度より15ポイント減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート（保護者用）において、「学校には、他の学校にない特色がある」の項目において、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10%増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を **85%以上**にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和6年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「わたしは、楽しく学校に通っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和5年度より2%増加させる。
- 令和6年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和6年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和5年度より2%増加させる。

※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）

- 1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動することによる出席認定含む）
- 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を **55%以上**にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.2ポイント向上**させる。
- 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を**35.6%以上**にする。
- 令和6年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「授業はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和5年度より5%増加させる。
- 令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より **0.1ポイント向上**させる。
- 規則正しい生活を身に付けている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を、令和6年度調査において、昨年度より **1ポイント向上**させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を50%以上にする。

（最終評価で記載）

【安全・安心な教育の推進】全市共通目標においては、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、最も肯定的な回答の割合が78.7%と達成できなかった。不登校生徒の在籍比率は10.5%と前年度より2.0%増加した。学校の年度目標においては「わたしは、楽しく学校に通っている」では、肯定的割合が86.7%で令和5年度より1.0%増加した。「将来の夢や目標を持っていますか」では、肯定的割合が56.8%で前年度より1.3%増加した。「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」では、肯定的割合が85.5%で令和5年度より2.8%増加した。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】全市共通目標においては、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的回答の割合が43.2%で達成できなかった。中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比では、同一母集団において経年的比較では、令和6年度は1年国0.98、2年数0.98、2年国0.97、2年数0.97、3年国0.94、3年数0.91でいずれの学年も下回った。大阪市英語力調査ではCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合が48.7%で昨年度より13.2%上回った。中期目標における令和6年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現の平均正答率が49.7%で減少した。「授業はわかりやすい」では、肯定的割合が82.6%で、令和5年度より4%減少したが8割を超えている。令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が男子が0.01ポイント、女子は0.07ポイント上回った。

【学びを支える教育環境の充実】今年度から年度目標となった「授業日において、生徒の8割以上を学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。」については、8.8%と大きく下回った。引き続き、授業における学習用端末の日常的な活用を周知していく。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は84.8%となっている。（2月末現在）ゆとりの日を月に1回設定し実施するにとどまったが、夏季休業期間では4日、冬季休業期間では2日設定できた。

全体を通して、いじめや不登校の割合を減少させることはできていないが、少しずつではあるが安全・安心な教育の推進することができた。また、学力・体力の向上においては、「授業が分かりやすい」は80%を超えるなど、全国学力テスト、チャレンジテストの点数にはもう少し時間を要するが、学校生活における生徒の学習に向かう姿、教職員の授業内容の工夫が浸透しつつある。しかしながら、生徒の学習用端末の活用については、学びを獲得する上で必要なツールとなっていくことから、授業以外でも日常的に活用する機会を作る必要がある。来年度以降も継続した取組と改善点を確認して取り組んでいきたい。

大阪市立梅香中学校令和6(2024)年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準

A: 目標を上回って達成した

B: 目標どおりに達成した

C: 取り組んだが目標を達成できなかった

D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	進捗状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を昨年度より減少させる。</p> <p>○ 令和6年度の学校評価アンケート(生徒用)において、「わたしは、楽しく学校に通っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和5年度より2%増加させる。</p> <p>○ 令和6年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、昨年度より増加させる。</p> <p>○ 令和6年度の学校評価アンケート(生徒用)において、「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、昨年度より2%増加させる。</p> <p>※ 昨年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)</p> <p>1 出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む)</p> <p>2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容 1 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】		
・ 慎重な生徒観察を軸に生徒指導に関する情報交換を密に行い、生徒状況の把握に努め、初期対応を逸しないよう心掛けるとともに「いじめについて考える日」の活用を図る。	生活指導部	B
【指標】 生徒理解の取り組みとして、年間 2 回の教育相談の実施と令和 6 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 1 0 0 % にする。		
取組内容 2 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】		
生活指導部を中心に、子どもの暴力行為に対する指導体制を整え、あらゆる機会を捉えて、暴力行為について指導し、暴力や暴言を許さない生徒を育む。	生活指導部	B
【指標】 令和 6 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を昨年度（1 ポイント）より減少させる。		
取組内容 3 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】		
不登校の生徒に対しては、学年団を中心にその状況を適切に把握するとともに、不登校対策委員会を機能させ、学校元気アップコーディネーターや学校力UP コラボレーター、スクールカウンセラーと連携し、より丁寧な対応を心がける。	生指 1 年	B C
【指標】 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を昨年度より減少させる。	2 年	B
	3 年	B
取組内容 4 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】		
・ 教科書を基本に、生き方に関する感性や自尊感情を養うとともに年間指導計画に基づき、人権に対する感性を養う。	道徳	B
【指標】 令和 6 年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「わたしは、学校のきまり、規則を守っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和 5 年度と同水準を保つ。	生指部	B
取組内容 5 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】		
キャリア教育や体験学習を充実させ、1 年生で職業講話や出前授業、2 年生で職場体験学習、3 年生で高校体験入学および修学旅行を行う。	1 年	B
	2 年	B
	3 年	B
【指標】 令和 6 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を昨年度（55.5 ポイント）より向上させる。		

取組内容 6 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

<p>教育活動全体を通して、生徒の規範意識育成はもとより、自他の生命や尊厳を互いに尊重する態度を育む。</p> <hr/> <p>【指標】 令和 6 年度の学校評価アンケート（生徒用）における次の各項目について、肯定的に答える生徒の割合をを昨年度より向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「正しい言葉遣いでしっかりと挨拶している」 ・「学校は落ち着いている」 ・「梅香中学校の生徒であることを誇りに思う」 	生 指	B
	1 年	B
	2 年	B
	3 年	B
	体 育 文 化	B

大阪市立梅香中学校令和 6 (2024)年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	進捗状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。</p> <p>○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も昨年度より 0.2ポイント向上させる。</p> <p>○ 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 35.6%以上にする。</p> <p>○ 令和 6 年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「授業はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和 5 年度より 2%増加させる。</p> <p>○ 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、昨年度より 0.1ポイント向上させる。</p> <p>○ 規則正しい生活を身に付けている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を、令和 6 年度調査において、昨年度より 1ポイント向上させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況	
取組内容 7 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】			
中学校チャレンジテストの結果を分析し、得点向上に向けた取り組みに生かす。 【指標】 令和 6 年度の中学校チャレンジテスト（プラス）における対市平均比を、昨年度より向上させる。	国	B	
	社	B	
	数	B	
	理	B	
	英	B	
取組内容 8 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】			
中学校チャレンジテストの結果を活用し、成績中位層の比率を上げる。 【指標】 令和 6 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も昨年度より 0. 2 ポイント減少させる。	国	B	
	社	B	
	数	B	
	理	B	
	英	B	
取組内容 9 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】			
中学校チャレンジテストの結果を活用し、成績下位層の底上げを図る。 【指標】 令和 6 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も昨年度より 0. 1 ポイント増加させる。	国	B	
	社	B	
	数	B	
	理	B	
	英	B	
取組内容 1 0 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】			
すべての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的で深い学びの視点から学習・指導方法の改善を図るための実践研究を行い、成果の共有を図る。 【指標】 令和 6 年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「学校の友だちとの間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができている（グループ学習・ペア学習など）」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、昨年度より 3 % 増加させる。	国	B	
	社	B	
	数	B	
	理	B	
	音	B	
	美	B	
	保体	B	
	技家	B	
	英	B	

取組内容 1 1 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】		
定期テストや授業での小テスト等を反復的に実施し、生徒自らが意欲的にテストに取り組む姿勢を養う。	国	B
	社	B
	数	C
	理	B
【指標】 令和 6 年度の全国学力・学習状況調査における無回答率を昨年度より 1 ポイント減少させる。	英	B
取組内容 1 2 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】		
インクルーシブ教育システムの充実と推進をはじめ、生徒一人ひとりの能力や特性に応じた指導等を充実させる。	1 年	B
	2 年	B
	3 年	B
【指標】 令和 6 年度の学校評価アンケート（生徒用）における次の各項目について、肯定的に答える生徒の割合をを昨年度より向上させる。 ・「各教科授業が楽しい、わかりやすい」 ・「様々なことを自ら学び・考えることができるようになった」 ・「学校には、他の学校にはない特色がある」	国	B
	社	B
	数	B
	理	B
	音	B
	美	B
	保体	B
	技家	B
	英	B
	特支	B
取組内容 1 3 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】		
若手教員等の指導力向上と生徒の学力向上のため、校内研修担当、メンター、学校元気アップ等を機能させ組織的に取り組む。	管理職	B
【指標】 学力向上支援チーム事業を活用し、教科授業の充実を図るとともに放課後学習会を計画的に週 3 日程度行う。		
取組内容 1 4 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】		
授業において、重点的に持久力を向上させる内容を実施するとともに、体育的行事の実施回数を増加させる。	保健体育	B
【指標】 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である男子 20m シャトルラン（持久力）の平均の記録を、昨年度より 0.1 ポイント向上させる。		

大阪市立梅香中学校令和 6 (2024)年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	進捗状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 5 0 % 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕</p> <p>○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を 8 0 % 以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容 1 5 【基本的な方向 6 教育 D X (デジタルトランスフォーメーション)の推進】		
一人一台パソコンを利用して教育 D X (デジタルトランスフォーメーション)の推進を図る	I C T	B
【指標】 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 5 0 % 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕		
取組内容 1 6 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】		
「災害防止計画」に基づき、災害時に備えた訓練を実施するとともに、区役所等、関係諸機関と連携して防災教育の取り組みを行い、防災への意識を高める。	健康 教育 部	A
【指標】 令和 6 年度において、家庭・地域・区役所との連携を踏まえたキャリア教育や防災教育・訓練を年 1 回以上実施する。		
取組内容 1 7 【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】		
働き方改革のさらなる推進を図り、教職員が働きやすい環境を整備する。	管 理 職	A
【指標】 ゆとりの日の設定を、月 1 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。		
取組内容 1 8 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】		
「魅力ある学校づくりの推進」を進めるため、学校ホームページで校内外の授業や活動の様子を掲載し、地域に開かれた学校をめざす。	管 理 職	B
【指標】 ホームページで授業の様子を掲載して、アクセス件数を昨年度比 5 % 増加させる。		

年度目標における取組の達成状況・結果と分析 および 次年度に向けて等		
取組内容①	生指部	教育相談は1学期に実施。3学期にも実施予定。いじめアンケートは毎学期実施し、必要に応じて各教員が生徒とコミュニケーションを図り、表情や行動から出てくるサインを見逃さないように観察している。
取組内容②	生指部	今年度も10月現在で複数回暴力行為をする者はいなかった。引き続き、暴力行為はいかなる場合でも許されない行為と指導に努め、関係諸機関と協力するなどし、未然に防げるように生徒が落ち着いて過ごす環境を整える。
取組内容③	生指部	各学年、不登校生徒が依然多い傾向にある。引き続き、学校と家庭や外部機関との連携を密にとれるように努める。
	1年	体調が改善し、登校できるようになった生徒もいるが、3学期に入り新たに不登校に陥った生徒もいる。保護者やスクールカウンセラー、こども相談センターなどとも連携を図り、新年度に向けて対応を継続する。
	2年	不登校生徒数は昨年度とあまり変わっていない。今年度に入り登校できるようになった生徒もいるが、登校できなくなった生徒もいる。本人、保護者に寄り添いながら、個々の抱える問題に寄り添っていききたい。
	3年	不登校生徒数は昨年度とあまり変わっていない。SCとの連携や保護者への連絡は密に取れている。進路が決定し、前向きになっている生徒も増えている。また、決定に向けて現在懇談等を通して卒業後のことを考えながら取り組んでいる生徒もいる。
取組内容④	道徳	1学期中に校内道徳研修会を実施することができた。各学年、行事等で道徳の授業が変更になることはあるものの、11月末に、行内研修会が実施運営できた。
	生指部	対教師暴力や授業離脱が起きている状態ではないが、校内秩序を乱す一部の生徒も見受けられる。安心、安全に集団生活を送るために規則があるという指導を教職員一丸となって継続して行う。
取組内容⑤	1年	2月28日に職業講話を実施する。 また来年度に大阪企業家ミュージアムの出前授業を計画している。
	2年	職業体験は予定通り行われた。職種はともあれ、社会を垣間見る良い機会であった。並行して進路学習も進めており、中学卒業後の進路先から将来の職業まで、具体的に考えていこうとする姿勢がみられる。
	3年	1学期予定通り修学旅行を行なった。夏休みや2学期の土日に私学の高校見学に多く参加していた。学年集会や各学級の学活や進路懇談等を通して、実際に自分の目で見て進路決定することを勧め、現在は公立の高校見学に行っている生徒も多い。

取組内容⑥	生指部	規範意識や社会性が身につけられるよう、登校時のあいさつから始まり、集会、学級活動、授業等を通じて日々指導を行っているが、遅刻や服装の乱れなどにも課題があるので引き続き指導に努める。
	1年	委員長以外にも声掛けができる生徒が増えてきている。 引き続き、自主的にあいさつできる生徒もいるが、先輩としての自覚を促すためにも、あいさつの重要性なども助言していく。
	2年	授業遅刻はない。授業中も逸脱した行為はない。しかし、「～しなければならない」で動いている生徒が多い。今後「させられている」から「自ら動く」になるよう導きたい。
	3年	授業開始2分前の入室、着席の指導を入学時から継続しており、落ち着いた状態で授業開始のチャイムを聞くことが概ねできている。しかし、一部の生徒による大幅な登校・授業遅刻があるため、生徒間でも差が生まれている。卒業に向け、学年全体として何事にもきちんと取り組めるよう継続して指導していく。
	体育大会	熱中症など健康面に配慮をし今年度は10月末に実施をした。それにより熱中症の疑いがある生徒や体調不良者が例年に比べて大きく減少した。 集団として行動するために個人・学級・学年としてどのように取り組むべきなのか考えながら活動できた。また、各係担当が責任をもって準備や運営に携わることができたため来年度も同様に実施していきたい。
	文化発表会	昨年度と同じ形式で実施をした。共生教育をテーマに在日コリアンに関する学習をふくめた取り組みを行った。劇や演奏や講話に触れ合う貴重な場となった。
取組内容⑦	国語	チャレンジテスト結果返却後に分析するが、誰一人取り残さない学力の向上を目指し、主体的対話的な深い学びの授業と週末課題や小テストを実施している。
	社会	チャレンジテスト返却後に分析する。後期に向けて、誰一人おいていかない丁寧な授業と実践に近い小テストや演習を日々行う。
	数学	基本的な計算だけにとどまらず、文章題を読み解く練習をしていき、無回答にならないように心がけている。数値目標は、学年問わず大阪府平均に並ぶようにしたい。
	理科	チャレンジテスト返却後に分析する。自然現象に対する興味を持てるように発問に工夫を加えたり、グループワーク、ICTを取り入れた授業や実験、演習を日々行っている。
	英語	チャレンジテスト返却後に分析するが、基本的な文法、単語をインプットし、活用できるよう授業内で小テストなどを実施している。

取組内容⑧	国語	チャレンジテスト結果返却後に分析するが、成績中位層の学力の向上を目指し、丁寧な授業と週末課題や小テストを実施している。
	社会	チャレンジテスト返却後に分析する。次年度に向けて、各学年の中位層の比率を引き上げられるよう基本的な語句の定着を課題プリント等をさらに自充実させる。
	数学	基本的な計算練習を繰り返しできるように、練習用のプリント・問題等を適切に作成している。
	理科	チャレンジテスト返却後に分析する。各学年の中位層の比率を引き上げられる基本的な語句の定着、簡単な計算問題の演習をプリント等で行っている。
	英語	チャレンジテスト返却後に結果を分析する。4技能がバランスよく身に着けられるような授業展開を実施する。 また英語検定を校内で実施し、生徒の意欲的に学習する力を育んでいる。
取組内容⑨	国語	チャレンジテスト結果返却後に分析するが、成績下位層の底上げを図り、丁寧な授業と週末課題や小テストを実施している。
	社会	チャレンジテスト返却後に分析する。次年度にむけて、各学年の下位層の比率を引き上げるため内容を大切な語句・内容をさらに絞って指導し、確実に点数をとらせるよう工夫する。
	数学	基本的な計算練習を繰り返しできるように、練習用のプリントを適切に作成している。
	理科	チャレンジテスト返却後に分析するが、各学年の下位層の比率を引き上げるため引き続き、自主学習の教材も用意し確実に点数をとらせるよう工夫する。
	英語	基本的な単語や文法をインプットするために、授業内で繰り返し練習し、定着を図っている。また適宜、家庭学習を出し、学習状況を確認している。

取組内容⑩	国語	生徒が主体的に学習できるように、「話すこと・聞くこと」「読むこと」などの領域において、グループやペアワークを積極的に実施している。
	社会	授業時数が安定したことから学校アンケートで基礎的・基本的な学力が身についているという割合が84%を超えることに貢献できた。教師との対話・生徒との対話をベースに言語活動を行った。次年度に向けて、言語活動を通して公民的資質の向上やICT機器を活用しながらの言語活動を行う。
	数学	問題練習の時間をできるだけとり、相談ができるような環境をつくっている。また、2・3年生の授業については、グループワークを全体の6割以上行いスモールティーチャーを活用している。
	理科	身近な化学現象について、生徒の対話を通して気づき、学べるようにグループワークやペアワークを積極的に取り入れている。また、対話の中で出た疑問について生徒と生徒、教員と生徒が相談できるような環境を作っている。
	音楽	歌唱・楽譜理解など自ら学ぶ姿勢をしっかりと取り組んでいきたい。
	美術	ペア学習やグループ学習を行い、自分の考えを説明したり、友達の意見を聞いたりするなどして考えを深めたり、広げたりすることができるようにすることができた。今後も生徒の実態に合わせて柔軟に対応しながら、対話的で深い学びに繋がる授業改善を図っていきたい。
	保健体育	各單元ごとにペアワークやグループワークを導入することができた。生徒同士の学習に対する主体性も高まり、積極的に授業に取り組むようになった。今後も取り組みを続けていきたい。
	技術家庭	実習を中心に積極的にグループワークを実施し、生徒同士が協力しながら思考を実現しようとする様子がみてとれるようになった。今後も他者から学び、個々人が技能を高められるように促していく。
	英語	授業中にペアワークやグループ学習を行い、言語能力を高める指導にあたっている。またC-NETの活用も積極的に行っている。

取組内容⑪	国語	週末課題や小テスト等も行い、数値目標としては、チャレンジテストに向けて取り組んできた。
	社会	全国学力・学習調査の実施はありません。次年度も引き続き定期・課題テスト等で無回答を減らすよう必要最低限の内容を反復練習をさせ、定着とともに達成感を持たせ
	数学	授業や各テストでの、説明や証明を要する解答で、部分点を配置し無回答を出さない工夫をしている。
	理科	小テストで平易な問題に取り組ませ、基礎的な内容の定着を図り達成感も持たせるようにしている。
	英語	授業で単語テストや小テストを実施し、反復練習を行い、基本的な学力の底上げを行っている。
取組内容⑫	1年	学級では班活動を積極的に行うことや、席替えの配慮により、生徒同士で助け合う姿が多く見られる。また朝読書や図書室の活用などにより、言語理解の向上に取り組んでいる。教科においてもペアワークや班活動を実施している。
	2年	学級、教科とも複数での活動が増えてきた。機会が増えたことに伴い、発言が苦手な生徒も少しずつ言葉を発せられるようになってきた。
	3年	教科によって授業内容に応じてペアワークや班活動を実施している。各学級でも生活班を中心にお互い助け合いながら活動することができた。
	国語	グループワーク、ペアワークを取り入れ、互いに高めあえる授業を心がけている。
	社会	学校アンケートで基礎的・基本的な学力が身につけているという割合が84%を超えることに貢献できた。次年度も丁寧な授業と豊富な学習プリントで基礎学力定着をは
	数学	かり、ニーズに合わせた授業スタイルを展開する。復習プリント等を適宜作成ができるソフトを導入して柔軟にプリントを作成している。
	理科	実験はできるだけ演示ではなく実際に行わせ、自然現象に直接触れる機会を多くしている。
	音楽	音楽の基本的な事項の充実と更なる強化を目指していきたい。
	美術	ICTの活用を工夫したり視覚的に伝わり易い作業手順の提示を工夫したりできた。積極的な机間指導を行い、ひとりひとりのニーズに応じた指導を工夫できた。今後もより分かり易く、興味関心を抱くことができるような工夫をしていきたい。
	保健体育	体育分野、保健分野にかかわらず、授業の内容の補足説明でICTの活用を積極的に行うことができた。グループワークを多く取り入れることができ、子どもたちの学びあいの機会が増えた。
	技術家庭	製作課題に積極的に取り組んでおり、生徒一人ひとりが工夫を凝らすことを意識した実習がおこなえている。今後は発表の機会を設け、他者の作品を批評する活動を通してさらなる意識向上に努めていく。
	英語	ICTやC-NETの活用を積極的に実施している。またペアワークやグループワークも取り入れ、学び合いの機会を多く持つようにしている。
	特別支援	教科への入り込みでは、個別に言葉かけをして指示の補足や学習内容のフォローを行っている。抽出授業では本人の特性、ペースに応じて課題を設定している。教室になじみにくい生徒に対しては登校支援という形で、サポートルーム自主課題を行う場や教員との対話の場として活用し、落ち着いて学校生活を送ることができるよう個別対応を行っている。また、生徒が目標の達成度を振り返りを行う。できたことを肯定的に言葉かけを行った。

取組内容⑬	管理職	校内研修は２学期から順調に進めることができた。若手教員の指導には大阪市総合教育センターの井口指導員の助言を受けながら計画的に実施し、教育センターからも授業参観をしてもらい指導力を高めることができた。また、元気アップ学習会を放課後に毎日開催、長期休業期間については25日間も開催した。来年度も授業力向上のため、工夫改善を進めたい。
取組内容⑭	保健体育	今年度の２年生男子の20mシャトルランの平均記録は昨年度の記録から2ポイント近く下がる形となってしまった。しかし、記録を提示し、目標をもって測定に臨むことができた。来年度は子どもたちがより具体的に目標を持って取り組めるように、授業改善を図りたい。
取組内容⑮	ICT	各教科の課題を中心に一人一台学習者用端末を授業内外で活用できる機会が増え、積極的に学習がおこなえる環境になっている。 心の天気などのさらなる活用を目指す。
取組内容⑯	健教部	消防署と連携して6月に火災を想定した避難訓練を実施した。避難経路の確認をしながら非常にスムーズに避難訓練を実施することができ、消防署から非常に高い評価をいただいた。 同日に教職員を対象にした緊急救命講習を実施し緊急における職員の対応、および知識を学んだ。今後も継続して防災に対する意識を高めていきたい。
取組内容⑰	管理職	職員会議のある日を「ゆとりの日」として設定し、定時で退勤できるよう取組を進めた。また、長期休業中における学校閉庁日については6日間(夏季4日、冬季2日)設定し、祝日等も併せて9日間閉庁した。年休取得も2月末時点で84.8%となり達成できた。テストや長期休業期間など、教職員の状況に合わせて年休取得をしている。引き続き、働きやすい環境づくりをつくりたい。
取組内容⑱	管理職	ホームページについては、アクセス数が一日平均203件(1月末現在)となり昨年度より下回ったが、学校の情報を多く発信することができた。来年度も保護者や地域に分かりやすい情報発信をしていきたい。